

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 24 日

所 属：獣医 学部 共通 学科

氏 名：一戸 登夢 職位： 講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

私の教育の責任範囲は、来年度より着任予定の、新設される獣医保健看護学科の設置準備への従事（新任であり、今年度はまだ設置されていないため、獣医保健看護学科の学生への教育活動はなかったが）、それにあたり入学者を確保するための広報活動・入試業務である。また麻布大学動物医療センターでの専門科目である整形外科の診療活動を通じての、獣医学科の学生・研修獣医師の教育も責任範囲である。さらに獣医保健看護学科の実習の場・将来の就職先として、本学動物医療センターの愛玩動物看護師の業務整理や人員確保のための待遇の見直しも私の教育の責任と考えている。ジェネラリスト育成プログラムにも参加し、研究指導を行なっている。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
小動物臨床実習	獣医学科	必	5	135
ジェネラリスト育成プログラム（骨関節炎[OA]に罹患した伴侶動物の加速度センサを用いたモニタリング）	獣医学科・動物応用科学科生がエントリーしている		1	3

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

専門分野の獣医臨床看護学は、疾患に罹患した動物の看護や、獣医師の指導の下での愛玩動物看護師による適切な処置、動物の健康な生活のための、実学的な学問領域である。現

場での動物や飼い主への対応には、正解は一つではなく、個々のケースに合わせて幾つもの正解がある。そのため、基本的な知識を習得すると同時に、状況に合わせて「自ら考え、正解に辿り着く能力」が必要となる。知識を基にして、自ら考えて正解に辿り着けるような学生を育てたいと考えている。

臨床現場で遭遇する様々な事象について自ら考えるためには、その考えを言語化する能力が必要となる。獣医師・愛玩動物看護師が個別に活動すれば良いわけではなく、協力の上で成立する「チーム獣医療」が近年、求められている。「チーム獣医療」を達成するためには、スタッフ間での「コミュニケーション能力」が求められるため、考えを自らの言葉として記述できる能力を身につけた学生を育てたいと考えている。

今現在、小動物獣医療に従事している獣医師でもある私は、「実務家教員」であることが存在意義であると考えている。獣医臨床看護学が対象とする獣医療の現場では知識も重要であるが、それ以上に「経験」がものを言うことが多い。知識を知っているだけでは実践に結びつかないことも多々あるため、それを補うのが経験である。現場で経験を伝えることにより、獣医療の現場で活躍できる人材を育成したいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

小動物獣医療の現場に必要な自ら考え、個々のケースに合わせた正解に辿り着く能力を養成するためには、すぐに手に入る答えを求めるのではなく、自ら考えて答えに辿り着く訓練を繰り返し行うことが必要となる。そのため、本学動物医療センターでの診療を通して、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師から疑問点を問われた際には初めから正解を教えるのではなく、可能な限りヒントとなるような考え方を提示して、自ら正解を導けるように誘導するようなやりとりを心がけるようにしている。

自ら正解を導く訓練を行うためには、質問や意見を発言しやすい環境づくりが重要であると考えている。そのために、学生・研修獣医師、愛玩動物看護師を一人の人間として尊重し、丁寧なやりとりを心がけるようにしている。また彼らの発言に対しては、否定から入るのではなく、必ず肯定的なコメントを述べるようにしている。さらに自らの意見や考えが、実際の診療につながるという実感を得ることも重要であると考えている。そのために、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師の考えや意見を自らの言葉で説明してもらい、良いと思ったものは、自らの日々の診療に積極的に取り入れるようにして、実践的な教育を実現している。

日々の診療活動を通じて、知識を伝える際にも、自らの臨床経験に基づいた話をするように心がけており、様々な考えや事例を取り入れてもらえるような工夫をしている。

アクティブラーニングについての取組

日常の診療活動の最中・終盤にその日対応した症例についてのディスカッションの時間

を設け、考えや疑問点などを学生や研修獣医師に発言してもらう機会を設けている。講義形式のような学科全体で、考える能力を身につける工夫としてはテーマを与え、それに対するレポート課題や、発表会などが考えられ、これらを今後は実施したいと考えている。

ICT の教育への活用

ICT 機器としての 3D プリンターにより作成された、個々の症例の骨形態が表現されたモデルを活動して、状況を理解しやすいように説明している。また学生の症例発表に際しては、画像や動画を提供し、発表しやすい環境に取り組むようにしている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

新任であり、学科も来年度よりの設置のため、授業は未実施である。実習については理解を促す目的で、画像や先に提示した 3D プリントモデルを活用して、直感的に理解出来るように努めた。

②学生の理解度の把握（B）

日々の診療の中でポイントと思われる点について、学生に質問するようにしている。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

診療技術の向上を図るための、参考図書の提示を行っている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

学生・研修獣医師からの質問に対しては、メールや対面でなるべく即時に対応するようにしている。

⑤双方向授業への工夫（A）

日々の診療活動の最中・終盤にその日対応した症例についてのディスカッションの時間を設け、考えや疑問点などを学生や研修獣医師に発言してもらう機会を設けている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

日々の診療の中で過去に国家試験で問われたことがある部分について、学生に質問するようにしている。

5. 学生授業評価

2023 年度着任で前年度のフィードバックがないため、記載は割愛する。

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

②①の結果はどうでしたか。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

なるべく直感的に理解出来るように、実際の症例の画像や動画、先に記述した 3D プリントモデルを活用して、説明するようにしている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生からは直接、理解しやすいとの講評を得ている。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

可能な限り、リアルタイムに参加している。参加出来なかった場合には、必ず録画を視聴している。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

獣医保健看護学科の教員として、本学卒業生の愛玩動物看護師国家試験の合格率を、同様に獣医学科が併設される大学よりも高いものにしたいと考えている。また本学を卒業する愛玩動物看護師にとって、本学動物医療センターが就職を希望するような魅力的な職場となるように、環境を整備したい。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

シラバス

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡